

平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン【概要版】

復旧・復興の3原則

- I 被災された方々の痛みを最小化する
- II 単に元あった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す
- III 復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる

有識者会議

- I 住民に寄り添った協働による復興
- II 創造的復興
- III 次代に継承する復興
- IV 次の災害に備える復興
- V 国・国民合意による復興

基本理念

県民の総力を結集し、
将来世代にわたる県民総幸福量を最大化する

熊本の将来像

災害に強く
誇れる資産を
次代につなぎ
夢にあふれる
新たな熊本

○将来が夢にあふれ、希望に満ちた熊本 (Hope)

○災害に強く、安全安心に生活できる熊本 (Safety)

○熊本の宝が継承され、誇りに満ちた熊本 (Pride)

○経済的に安定し、躍動する熊本 (Economy)



痛みの最小化を目指した早急な対応(主に平成28年度の取組み)

くらし・生活の再建 ～被災者に寄り添い、すまい、医療・福祉、教育など県民生活を再建～

- ◆ 避難所の運営支援(要援護者支援等)
- ◆ 仮設住宅の提供(「みんなの家」整備、利便施設設置、交通手段確保を含む)
- ◆ 宅地の復旧、耐震化支援
- ◆ 経済的困窮者や子供の支援
- ◆ 震災離職者等の就労支援
- ◆ 損壊家屋等の公費解体及び災害廃棄物処理
- ◆ 学校施設復旧・再開、心のケアと学力確保
- ◆ 医療・福祉施設復旧、被災者の健康・心のケア
- ◆ 出産・子育て環境の回復
- ◆ 南阿蘇村立野地区における寄添い支援
- ◆ 東海大学農学部阿蘇キャンパスの再開支援

社会基盤の復旧 ～道路・鉄道、阿蘇・熊本城、防災拠点など「くまもと」の基盤を再生～

- ◆ 被災道路の応急復旧及び本格復旧着手
- ◆ 国道57号・阿蘇大橋復旧方針決定、俵山ルート年内仮復旧
- ◆ 南阿蘇鉄道、JR豊肥本線の復旧推進
- ◆ 市町村庁舎など防災拠点の復旧支援
- ◆ 「熊本都市圏東部地域グランドデザイン(大空港構想NextStage)」の策定
- ◆ 広域防災拠点の機能強化
- ◆ 国民参加による熊本城復旧の推進
- ◆ 阿蘇の草原など自然・景観の再生推進

地域産業の再生 ～風評被害対策の実施、観光産業、農林水産業、商工業などを再生～

- ◆ 風評被害対策、観光産業の再生
- ◆ 農地・農業用施設の復旧、営農支援
- ◆ 応援気運を捉えた農林水産物の販路拡大
- ◆ グループ補助金等による地域産業の再生
- ◆ サプライチェーンの回復、企業BCP支援

交流機能の回復 ～阿蘇くまもと空港、熊本港、八代港などの復旧と機能を強化～

- ◆ 「熊本都市圏東部地域グランドデザイン(大空港構想NextStage)」の策定
- ◆ 熊本港、八代港の機能強化と利用促進
- ◆ 国際人材の育成、活動支援

新たな熊本の創造に向けた取組み

安心して希望に満ちた暮らしの創造
～安心・希望を叶える～

- ① 家族や地域の強い絆が息づく地域づくり
- ② 安全安心で暮らし学べる生活環境づくり
- ③ あらゆる状況に備える医療・福祉提供体制づくり

未来へつなぐ資産の創造
～未来の礎を築く～

- ④ 災害に負けない基盤づくり
- ⑤ 地域の特性を活かした拠点づくり
- ⑥ くまもとの誇りの回復と宝の継承

次代を担う力強い地域産業の創造
～地域の活力と雇用を再生する～

- ⑦ 競争力ある農林水産業の実現
- ⑧ 県経済を支える地域企業の再生・発展
- ⑨ 自然共生型産業(アグリ・バイオ・ヘルスケア等)を核としたオープンイノベーション機能の確立
- ⑩ 地域資源を活かす観光産業の革新・成長
- ⑪ 高等教育機関と連携した産業振興と人材確保

世界とつながる新たな熊本の創造
～世界に挑み、世界を拓く～

- ⑫ アジアのゲートウェイを目指した空港・港の機能強化
- ⑬ 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

今後の「震災復興モデル」となるために

■ 国や市町村など多様な主体との連携・協力

- 国との連携 …国直轄事業の実施を含め、技術・人材・財源等で国と県が緊密に連携
- 市町村との連携 …被災市町村の復興計画の策定や着実な推進を支援、地域の振興計画とも連携
- 県内外の多様な主体との連携 …県民、地域組織、ボランティア団体、産業界、教育機関、金融機関等の総力を結集

■ 復興財源等の確保

- 復旧・復興事業への人材と財源の重点化、及び国に対する財政支援要望

■ プランの進行管理

- 平成28年熊本地震復旧・復興本部を中心としてPDCAサイクルによる進行管理

■ 災害対応の検証を踏まえたプランの見直し

- 検証結果をプラン改訂に反映
- 「創造的復興」のモデルとして全国に発信するとともに、災害対応の教訓等を後世に伝承